

特許情報は同時に開発動向を示唆する重要なテクノロジー情報でもあります

## ガイドブックシリーズのねらい

この“ガイドブックシリーズ”では、技術テーマを絞り、特許情報から見た最新のテクノロジー情報をお届けすることをねらいとしています。

編集方針は、絞り込まれた特定の技術テーマに対して下記を意図しております。

- ・最近の出願技術を知る
- ・最近の出願課題を知る
- ・最近の出願企業を知る
- ・自己の課題の相対的位置を知る
- ・発明の出願形態(書き方、内容)を知る

★特許情報は技術者・研究者に役立つテクノロジー情報です

最近の研究開発の成果が反映されたテクノロジー情報です。競合各社の技術者・研究者も、開発に携わる皆様と同じ技術テーマについて、直面する課題や対応技術に取り組んでいます。特許情報は、それぞれが得意とする技術や注力度合い、目指す技術的方向を反映する信頼度の高い技術情報です。

★ガイドブックシリーズでは

特定テーマについて実際の製品開発や改良研究を行っている企業第一線の技術者や研究者を読者として想定しています。直近数年の特許出願に限り、技術テーマを具体的に絞り込んだうえで、特許・技術の双方をみわたすガイドとなる典型例を、各巻ごとに100～200件程度、掲載しました。

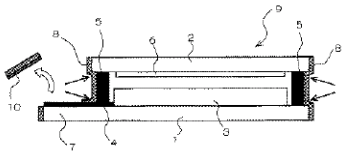
各巻では、全体を見渡すガイドマップを巻頭に示し、平明でわかりやすい技術的観点に従った分類に分けて、それぞれのセクションには、できるだけ多くの特許情報を掲載するように工夫しています。また、巻末には、参考情報として収録した特許情報の一覧表を掲載しています。

技術と特許の双方にわたる実戦的ガイドブックとして、本書をご活用ください。

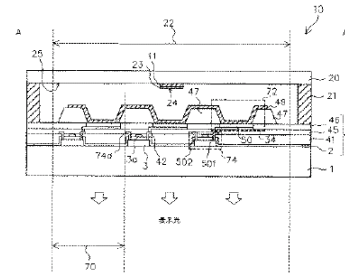
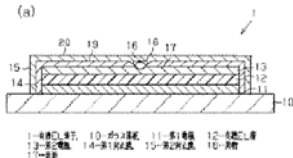
2006年

株式会社ネオテクノロジー

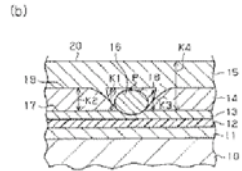
SAMPLE



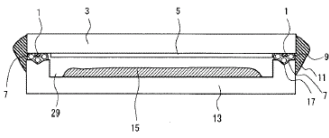
特開2007-103048  
オプトレックス



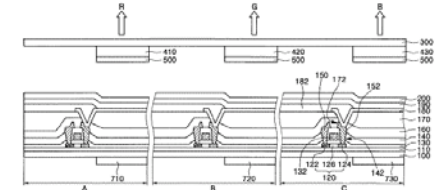
特開2006-140079  
セイコーエプソン



特開2007-066580  
豊田自動織機



特開2006-147192  
三洋電機



特開2006-147561  
三星エスディアイ

水分侵入防止構造

吸湿材・捕水材の利用  
- 密封キャビティ

吸湿材・捕水材の利用  
- トップミッション

吸湿材・捕水材の利用  
- その他

有機EL技術 シリーズ  
有機EL耐久性のための水分対策 編

ガイドマップ  
©NeoTechnology

P. 1

P. 25

P. 61

その他  
(シール材など)

フレキシブル  
ディスプレイ  
P. 93

封止工程での  
水分対策 P. 83

P. 75

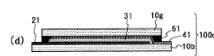
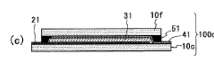
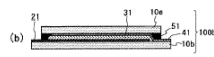
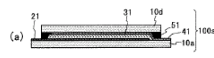
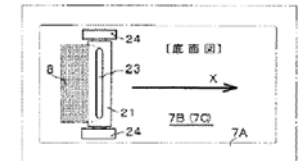
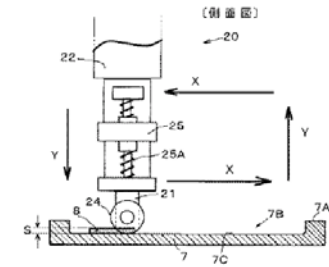
光硬化型樹脂組成物、  
有機エレクトロルミネ  
センス素子用接着剤、  
有機エレクトロルミネ  
センス表示素子、及び、  
有機エレクトロルミネ  
センス表示素子の製造  
方法

特開2006-291072  
積水化学工業

電子デバイス用  
封止フィルム  
およびそれを用  
いた表示素子

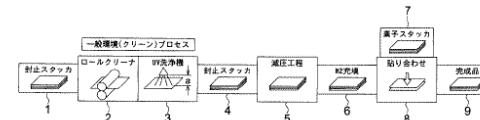
特開2006-  
059620  
三井化学

特開2006-048944  
日本精機



- カラーフィルタの形成 → S101
- オーバーコート層の形成 → S102
- 無機窒化物層の形成 → S103
- 第1電極の形成 → S104
- 絶縁材料層の形成 → S105
- 隔壁の形成 → S106
- 水分は有機物の除去 → S107
- 乾燥炉熱下での搬送 → S108
- 高真空炉 (高真空室内) → S109
- 有機発光層の形成 → S110
- 第2電極の形成 → S111
- 封止工程 → S112
- 加熱処理 → S113

特開2007-087852  
コニカミノルタ  
ホールディングス



特開2006-019087  
オプトレックス

特開2006-253055  
凸版印刷

SAMPLE

# 水分侵入防止構造

(51) Int.Cl.	テ-マコード' (参)	F I	
H05B 33/04 (2006.01)	3K007	H05B 33/04	
H05B 33/02 (2006.01)		H05B 33/02	
H05B 33/06 (2006.01)		H05B 33/06	
H05B 33/10 (2006.01)		H05B 33/10	
H01L 51/50 (2006.01)		H05B 33/14	A

(21) 特願2004-203771

(22) 平成16年(2004)7月9日

【 F タ-ム 】 3K007 AB13 AB18 BA06 BA07  
 BB01 BB02 CA01 CA06  
 CC05 DB03 EA00 FA02

(71) 出願人 シャープ株式会社  
 (72) 発明者 寺田 幸祐

大阪府大阪市阿倍野区長池町 2 2 番 2 2 号

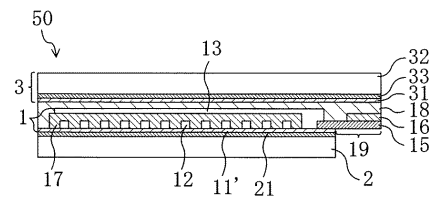
(54) 【発明の名称】 表示装置およびその製造方法

(57) 【要約】

【課題】 防湿性、フレキシブル性、耐貫通強度に優れた表示装置の提供。

【解決手段】 有機 E L 表示装置 5 0 は、第 1 ガラス基板 1 1 ' と、第 1 ガラス基板 1 1 ' 上に設けられた発光層 1 7 と、発光層 1 7 を封止する封止樹脂層 1 8 と、第 1 ガラス基板 1 1 ' に対向配置された第 2 ガラス基板 3 1 とを備える。第 1 ガラス基板 1 1 ' および第 2 ガラス基板 3 1 のそれぞれは、発光素層 1 7 に対して反対側の面に設けられたプラスチックフィルム 2 , 3 2 を有しており、第 1 ガラス基板 1 1 ' と第 2 ガラス基板 3 2 とが封止樹脂層 1 8 によって接着固定されている。

【選択図】 図 1



【技術分野】

【 0 0 0 1 】

本発明は有機 E L ( エレクトロルミネッセンス ) 表示装置などの表示装置およびその製造方法に関する。

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 ガラス基板と、前記第 1 ガラス基板上に設けられた発光素子と、前記発光素子を封止する封止樹脂層と、前記第 1 ガラス基板に対向配置された第 2 ガラス基板とを備えた表示装置において、前記第 1 ガラス基板および前記第 2 ガラス基板のうち少なくとも一方のガラス基板は、前記発光素子に対して反対側の面に設けられたプラスチックフィルムを有してお

り、

前記第 1 ガラス基板と前記第 2 ガラス基板とが前記封止樹脂層によって接着固定されていることを特徴とする表示装置。

【請求項 2】

請求項 1 に記載された表示装置において、前記プラスチックフィルムが設けられた前記少なくとも一方のガラス基板が 5 0 μ m 以下の厚さを有することを特徴とする表示装置。

【請求項 3】

第 1 ガラス基板と、前記第 1 ガラス基板上に設けられた発光素子と、前記発光素子を封止する封止樹脂層と、前記第 1 ガラス基板に対向配置された第 2 ガラス基板と、前記発光素子に対して反対側の前記第 1 ガラス基板の面

[ 続きあり ]

SAMPLE

# 吸湿材・捕水材の利用

密封キャビティ

(51) Int.Cl. テーマコード(参) F I (21)特願2004-331291  
 H05B 33/04 (2006.01) 3K007 H05B 33/04  
 H05B 33/10 (2006.01) H05B 33/10 (22)平成16年(2004)11月16日  
 H01L 51/50 (2006.01) H05B 33/14 A 優(31)特願2004-158464  
 先(32)平成16年(2004)5月28日  
 権(33)日本国(JP)

【Fターム】3K007 AB11 AB18 BB01 BB05  
 DB03 FA02

(71)出願人 日本精機株式会社  
 (72)発明者 皆川 正寛(外1名)

新潟県長岡市東蔵王2丁目2番34号

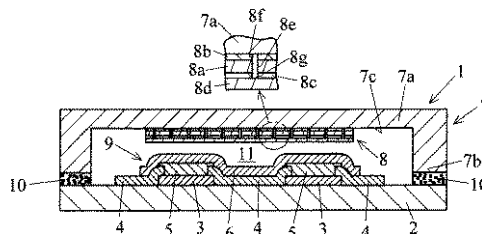
(54)【発明の名称】有機ELパネル及びその製造方法

(57)【要約】

【課題】 シート状吸湿部材を封止部材に対して短時間でフラットに貼り付けることが可能な有機ELパネルを提供する。

【解決手段】 少なくとも発光層を有する有機層5を透光性の第1電極3と非透光性の第2電極6とで挟持してなる有機EL素子9を、透光性の支持基板2と封止部材7とで囲まれる空洞部11内に気密的に配設してなる有機ELパネル1であって、可撓性を有する基材8a上に吸着部8dを配設してなる吸湿部材8を空洞部11の内壁面に有機EL素子9と離間するように配設し、基材8aに通気部8eを設けた。

【選択図】 図2



【技術分野】

【0001】

本発明は、少なくとも発光層を有する有機層を一对の電極により挟持してなる積層体を支持基板上に配設するとともに、この支持基板上に封止部材を配設することで積層体を収納する有機EL(エレクトロルミネッセンス)パネル及びその製造方法に関するものである。

【特許請求の範囲】

【請求項1】

少なくとも発光層を有する有機層を少なくとも一方が透光性の第1電極と第2電極とで挟持してなる積層体を、透光性の支持基板と封止部材とで囲まれる空洞部内に気密的に配設してなる有機ELパネルであって、

可撓性を有する基材上に吸着部を配設してなる吸湿部材を前記空洞部の内壁面に前記積層体と離間するように配設し、前記吸湿部材は、前記基材及び前記吸着部のうち少なくとも前記基材に通気部を備えてなることを特徴とする有機ELパネル。

【請求項2】

前記基材は、多孔質性フィルムからなることを特徴とする請求項1に記載の有機ELパネル。

【請求項3】

少なくとも発光層を有する有機層を少なくとも一方が透光性の第1電極と第2電極とで挟持してなる積層体を、透光性の支持基板と封止部材とで囲まれる空洞部内に気密的に配設してなる有機ELパネルであって、

[続きあり]

SAMPLE

# 吸湿材・捕水材の利用

トップミッション

審査請求 有 請求項の数15 O L

(全13頁)

(51) Int. Cl.	テ-マコード' (参)	F I	(21)特願2005-190174
H05B 33/04 (2006.01)	3K007	H05B 33/04	
H05B 33/10 (2006.01)		H05B 33/10	(22)平成17年(2005)6月29日
H01L 51/50 (2006.01)		H05B 33/14	優(31)10-2004-0049724
			先(32)平成16年(2004)6月29日
			権(33)韓国(KR)

【Fターム】3K007 AB11 AB18 BB01 BB05  
DB03 FA02

(71)出願人 三星エスディアイ株式会社  
(72)発明者 崔 東洙 (外3名)

大韓民国京畿道水原市靈通区 しん 洞 5 7 5 番地

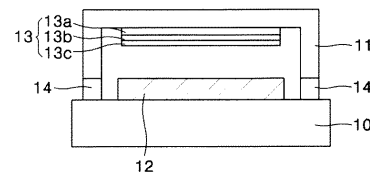
(54)【発明の名称】有機電界発光素子及びその製造方法

(57)【要約】

【課題】 有透明吸湿層を備えるとともに堅固な密封構造を有する、有機電界発光素子及びその製造方法を提供する。

【解決手段】 本発明に係る有機電界発光素子は、基板と、第1電極層、第2電極層及び前記第1電極層と前記第2電極層との間に配置された有機発光部を備え、前記基板の一方の面に形成された有機電界発光部と、前記有機電界発光部を介して前記基板と密封される封止基板と、前記封止基板のうち有機電界発光部に対向する一方の面に粘着層、透明高分子層及び透明吸湿層からなる封止層を備える。

【選択図】 図1



【技術分野】

【0001】

本発明は、有機電界発光素子及びその製造方法に係り、さらに詳細には、付着方法を利用して備えられた透明吸湿層を含む有機電界発光素子及びその製造方法に関する。

【特許請求の範囲】

【請求項1】

基板と；  
第1電極層、第2電極層及び前記第1電極層と前記第2電極層との間に配置された有機発光部を備え、前記基板の一方の面に形成された有機電界発光部と；  
前記有機電界発光部の周囲を覆うように前記基板と直接

的又は間接的に密着される封止基板と；

前記封止基板のうち有機電界発光部と対向する面に、粘着層、透明高分子層及び透明吸湿層からなる封止層と；  
を備えることを特徴とする、有機電界発光素子。

【請求項2】

前記粘着層は、アクリル系接着剤からなることを特徴とする、請求項1に記載の有機電界発光素子。

【請求項3】

前記透明高分子層は、ポリエステル系高分子、ポリカーボネート系高分子、ポリスチレン系高分子またはアクリル系高分子のうち少なくとも1種からなることを特徴とする、請求項1に記載の有機電界発光素子。

【請求項4】

前記透明吸湿層は、100nm以下の多孔性粒子からな

[続きあり]

SAMPLE

# 吸湿材・捕水材の利用

その他



審査請求 未請求 請求項の数5 O L

(全10頁)

(43)公開日 平成18年(2006)7月16日

(51) Int.Cl.	テ-マコード' (参)	F I
H05B 33/10	(2006.01) 3K007	H05B 33/10
B05C 5/02	(2006.01) 4D075	B05C 5/02
B05D 1/26	(2006.01) 4F041	B05D 1/26 Z
H05B 33/04	(2006.01)	H05B 33/04
H01L 51/50	(2006.01)	H05B 33/14 A

(21)特願2004-223913

(22)平成16年(2004)7月30日

【Fターム】 3K007 AB08 AB13 AB18 BB01  
BB05 DB03 FA02  
4D075 AC06 AC78 AC88 DA06

[続きあり]

(71)出願人 日本精機株式会社  
(72)発明者 遠藤 利明

新潟県長岡市東蔵王2丁目2番34号

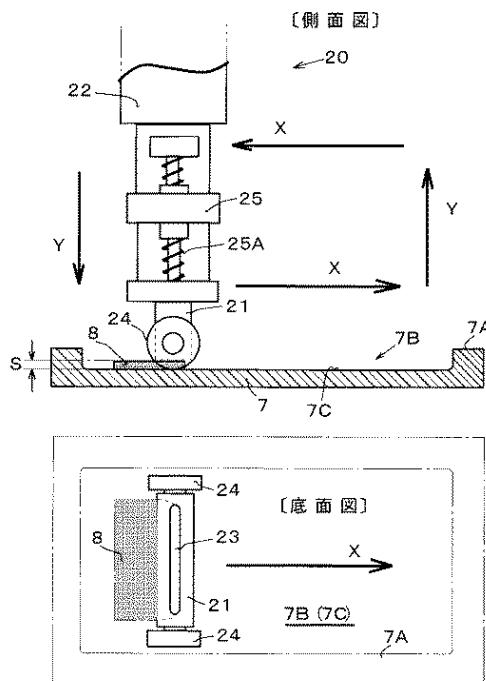
(54)【発明の名称】有機ELパネルにおける吸湿部材の塗布装置および吸湿部材の塗布方法

(57)【要約】

【課題】 本発明は、生産性に優れ、かつ封止部材の接着工程前において、封止部材の収納部の底壁部に簡単に吸湿部材を塗布することのできる有機ELパネルを提供すること。

【解決手段】 本発明による有機ELパネルにおける吸湿部材の塗布装置あるいは塗布方法においては、有機EL素子9および吸湿部材8を収容する空間部からなる収納部7Bを備えた封止部材7によって気密的に覆う有機ELパネル1において、封止部材7の収納部7Bに設けられた底壁部7Cの幅方向に沿って粘性を有する吸湿部材8を吐出可能とする吐出孔23を設けたニードル部21を備えた吸湿部材供給機構22を配置することによって、比較的広いエリアの封止部材7に設けられた収納部7Bの底壁部7Cの領域に幅広く吸湿部材8を塗布することができるため、生産効率を高めつつ安定した吸湿部材8の塗布作業を行うことが可能となる。

【選択図】 図4



【技術分野】

【0001】

本発明は、少なくとも一方が透光性の一対の電極により挟持され所定の発光をなす有機EL素子(有機エレクトロルミネッセンス素子)を備えた有機ELパネルに関するものである。

【特許請求の範囲】

【請求項1】

少なくとも発光層を含む有機層を一対の電極により挟持してなる有機EL素子を透光性の支持基板上に配設し、前記有機EL素子を空間部からなる収納部を備えた封止部材によって気密的に覆うとともに、前記収納部内に吸湿部材を配設する有機ELパネルにおける吸湿部材の塗

布装置において、前記収納部に設けられた底壁部の幅方向に沿って粘性を有する吸湿部材を吐出可能とする吐出孔を設けたニードル部を備えた吸湿部材供給機構を配置し、前記封止部材に設けられた収納部の底壁部と所定の間隔に前記ニードル部の先端部を接近作動させた後、前記吸湿部材の塗布を開始し、かつ前記収納部の底壁部に沿って平行移動した後に前記吸湿部材の塗布作動を停止するように設定してなることを特徴とする有機ELパネルにおける吸湿部材の塗布装置。

【請求項2】

前記吸湿部材供給機構に備えられたニードル部側には、前記封止部材の収納部に設けられた底壁部との隙間間隔を設定するための位置調整部を設けてなることを特徴とする請求項1に記載の有機ELパネルにおける吸湿部

[続きあり]

SAMPLE

# 封止工程での水分対策

# 公開特許 J P 抄録

特開2006-19087

(P 2 0 0 6 - 1 9 0 8 7 A)

審査請求 未請求 請求項の数10 O L

(全27頁)

(43)公開日 平成18年(2006)1月19日

(21)特願2004-194366

(51)Int.Cl. テーマコード(参) F I  
H05B 33/10 (2006.01) 3K007 H05B 33/10  
H01L 51/50 (2006.01) H05B 33/14 A (22)平成16年(2004)6月30日

【Fターム】3K007 AB11 AB13 BA06 DB03  
FA00 FA01 FA03

(71)出願人 オプトレックス株式会社  
(71)出願人 旭硝子株式会社  
(72)発明者 増茂 邦雄(外2名)

東京都荒川区東日暮里五丁目7番18号  
東京都千代田区有楽町一丁目12番1号

(54)【発明の名称】有機EL表示素子の製造方法

(57)【要約】

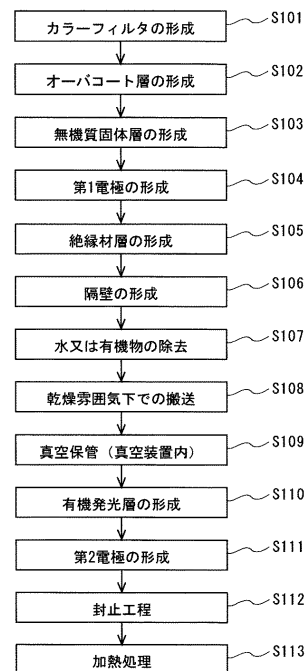
【課題】

経時的な表示欠陥が生じ難い有機EL表示素子の製造方法を得る。

【解決手段】

本発明は、電極間に配置された発光層を備える有機EL表示素子の製造方法であって、基板21にカラーフィルタ22を形成してから無機質固体層24を形成するステップと、電極間に配置された発光層27を形成するステップと、シール封止するステップと、発光層形成前に基板を100℃以上に加熱して無機質固体層24に設けられた透水経路を介して水分等を乾燥除去するステップとを備え、乾燥ガス雰囲気下において100℃以上に維持した状態で発光層27を形成する蒸着装置に搬送するものである。

【選択図】 図2



【技術分野】

【0001】

本発明は有機エレクトロルミネッセンス(以下、本明細書では、有機ELと略称する。

【特許請求の範囲】

【請求項1】

電極間に配置された有機発光層に対応する画素を複数備える有機EL表示素子の製造方法であって、基板に有機質層を形成するステップと、前記有機質層の上に無機質固体層を形成するステップと、前記無機質固体層の上に複数の透明な第1の電極を形成するステップと、

前記複数の第1の電極のそれぞれの上に有機発光層を形成するステップと、  
前記第1の電極の上に設けられた有機発光層の上に第2の電極を形成するステップと、  
前記第2の電極が形成された前記基板と対向配置された対向基板とをシール材を介して貼り合わせて表示部をシール封止するステップと、  
前記第2の電極を形成する前に前記基板を100℃以上に加熱して、前記第1の電極間の領域において前記無機質固体層に表示領域全体にわたって略均一に設けられた透水経路を介して前記有機質層の水又は有機物を除去するステップと、  
前記水又は有機物が除去された前記基板を100℃以上に維持した状態で前記有機発光層を形成する有機発光層  
[続きあり]

SAMPLE

フレキシブルディスプレイ

(51) Int.Cl.	テ-マコード' (参)	F I
H05B 33/02 (2006.01)	3K007	H05B 33/02
B32B 27/08 (2006.01)	4F100	B32B 27/08
H05B 33/04 (2006.01)		H05B 33/04
H01L 51/50 (2006.01)		H05B 33/14 A

(21)特願2005-70570

(22)平成17年(2005)3月14日

【Fターム】3K007 AB12 AB13 BA07 BB01  
CA06 DB03 FA02  
4F100 AA13D AA13E AA19D AA19E

[ 続きあり ]

(71)出願人 凸版印刷株式会社  
(72)発明者 銭 懿範 (外2名)

東京都台東区台東1丁目5番1号

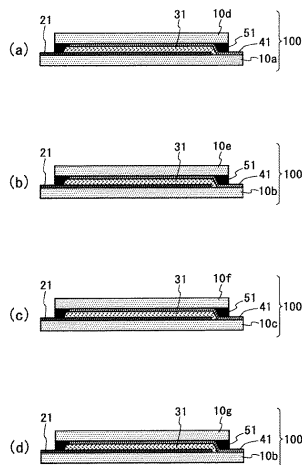
(54)【発明の名称】有機エレクトロルミネッセンス素子用フレキシブル基板及びそれを用いた有機エレクトロルミネッセ

【57】【要約】

【課題】水蒸気及びガスバリアー性に優れたフレキシブル有機エレクトロルミネッセンス素子を提供することを目的とする。

【解決手段】有機エレクトロルミネッセンス素子用フレキシブル基板10aを陽極、有機発光層、陰極からなる有機エレクトロルミネッセンス素子を形成するためのベース基材として、有機エレクトロルミネッセンス素子用フレキシブル基板10dを封止板として用い、有機エレクトロルミネッセンス素子用フレキシブル基板10aの保護層14上に透明導電膜からなる陽極層21と、有機発光層を含む複数の有機発光媒体層31と、金属からなる陰極層41とを順次形成し、封止用接着剤51を介して、有機エレクトロルミネッセンス素子用フレキシブル基板10dのバリアー層13を接着面にして、封止接着剤51にて接着封止して、有機エレクトロルミネッセンス素子を得る。

【選択図】図3



【技術分野】

【0001】

本発明は、有機エレクトロルミネッセンス素子用フレキシブル基板及びそれを用いたフレキシブル有機エレクトロルミネッセンス素子に関する。

【特許請求の範囲】

【請求項1】

透明フィルム基板の両面に熱硬化又はUV硬化樹脂からなる平坦化層と、透明バリアー層と、熱硬化又はUV硬化樹脂からなる保護層とをそれぞれ設けたことを特徴とする有機エレクトロルミネッセンス素子用フレキシブル基板。

【請求項2】

透明フィルム基板の一方の面に熱硬化又はUV硬化樹脂からなる平坦化層と、透明バリアー層と、熱硬化又はUV硬化樹脂からなる保護層とを、透明フィルム基板の他方の面に熱硬化又はUV硬化樹脂からなる平坦化層と、透明バリアー層とをそれぞれ設けたことを特徴とする有機エレクトロルミネッセンス素子用フレキシブル基板。

【請求項3】

透明フィルム基板の一方の面に熱硬化又はUV硬化樹脂からなる平坦化層と、透明バリアー層と、熱硬化又はUV硬化樹脂からなる保護層とを、透明フィルム基板の他方の面に透明バリアー層とをそれぞれ設けたことを特徴とする有機エレクトロルミネッセンス素子用フレキシブル基板。

【請求項4】

[ 続きあり ]

SAMPLE

その他(シール材など)

(51) Int.Cl.	テ-マコード' (参)	F I	(21)特願2004-239216
H05B 33/04 (2006.01) 2H090		H05B 33/04	
B32B 27/00 (2006.01) 3K007		B32B 27/00 B	(22)平成16年(2004)8月19日
G02F 1/1333 (2006.01) 4F100		G02F 1/1333 500	
H01L 51/50 (2006.01)		H05B 33/14 A	

【 F タ-ム 】 2H090 JB03 JD11 JD12 JD15  
 3K007 AB12 AB13 BB01 DB03  
 FA02

[ 続きあり ]

(71)出願人 三井化学株式会社 東京都港区東新橋一丁目5番2号  
 (72)発明者 川本 悟志 (外1名)

(54)【発明の名称】電子デバイス用封止フィルムおよびそれを用いた表示素子

(57)【要約】

【課題】 有機 E L 素子や液晶表示素子等の、精密で、極めて低湿度、低酸素濃度の動作環境が要求されるデバイスに十分な寿命を与えることが可能な電子デバイス用可とう性封止フィルム、およびそれらを用いた表示素子を提供する

【解決手段】 1 2 0 、 2 4 時間の高温試験における寸法変化が一定値以下であり、 6 0 、 相対湿度 9 0 % 1 0 0 時間の高温高湿試験における寸法変化が一定値以下であり、酸素透過率が一定値以下であり、透湿度が一定値以下であり、酸素吸着能力が一定値以上であり、かつ、吸湿能力が一定値以上であることを特徴とする電子デバイス用の可とう性封止フィルム。

【選択図】 なし

【実施例】

以下に実施例および比較例を挙げ、本発明を具体的に説明する。本発明はいかなる意味においても、これらの実施例に限定されるものではない。

(各層の作製および特性評価)

( 1 2 0 、 2 4 時間の高温試験における寸法変化)

1 2 0 、 2 4 時間の高温試験における寸法変化は、 1 0 c m 角のサンプルを 1 2 0 にセットした熱風循環式の送風定温乾燥機 ( ヤマト科学 ( 株 ) 製、定温乾燥機型式 D S 6 0 0 ) 内に 2 4 時間静置し、試験前後の 4 辺の長さの変化率を求めることによって、測定した。4 辺の長さの変化は、4 辺の変化率の平均とした。

【 0 0 7 4 】

( 6 0 、 相対湿度 9 0 % における、 1 0 0 時間の寸法変化)

6 0 、 相対湿度 9 0 % における 1 0 0 時間の寸法変化は、 1 0 c m 角のサンプルを 6 0 、 相対湿度 9 0 % にセットした恒温恒湿環境試験機に 1 0 0 時間静置し、試験前後の 4 辺の長さの変化率を求めることによって測定した。4 辺の長さの変化は、4 辺の変化率の平均とした [ 続きあり ]

【技術分野】

【 0 0 0 1 】

本発明は、電子デバイス用封止フィルム、特に有機 E L 素子や液晶表示素子等の表示素子に好ましく用いられる封止フィルム、およびそれらを用いた表示素子に関する。

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

1 2 0 、 2 4 時間の高温試験における寸法変化が  $\pm 0 . 1 5 \%$  以下であり、 6 0 、 相対湿度 9 0 % 、 1 0 0 時間の高温高湿試験における寸法変化が  $\pm 0 . 1 5 \%$  以下であり、酸素透過率が  $0 . 4 5 \text{ cm}^3 / (\text{m}^2 \cdot \text{day} \cdot \text{atm})$  以下であり、透湿度が  $0 . 3 5 \text{ g} / (\text{m}^2 \cdot \text{day})$  以下であり、酸素吸着能力が  $1 0 0 \text{ cm}^3 / \text{m}^2$  以上であり、かつ、吸湿能力が  $0 . 2 \text{ g} / \text{m}^2$  以上であることを特徴とする電子デバイス用の可とう性封止フィルム

d a y ) 以下であり、酸素吸着能力が  $1 0 0 \text{ cm}^3 / \text{m}^2$  以上であり、かつ、吸湿能力が  $0 . 2 \text{ g} / \text{m}^2$  以上であることを特徴とする電子デバイス用の可とう性封止フィルム

【請求項 2】

少なくとも、 ( A ) ガスバリア層、 ( B ) ベースフィルム、および ( C ) 乾燥剤・脱酸素剤含有樹脂層から成る電子デバイス用の封止フィルムであって、

( B ) のベースフィルムが、 1 2 0 、 2 4 時間の高温試験における寸法変化が  $\pm 0 . 1 5 \%$  以下であり、 6 0 、 相対湿度 9 0 % 、 1 0 0 時間の高温高湿試験における寸法変化が  $\pm 0 . 1 5 \%$  以下であり、酸素透過率が  $1 0 0 0 \text{ cm}^3 / (\text{m}^2 \cdot \text{day} \cdot \text{atm})$  以下であり、透湿度が  $2 0 0 \text{ g} / (\text{m}^2 \cdot \text{day})$  以下であり、

[ 続きあり ]

掲載特許一覧表



公開番号	出願人	発明の名称	出願日	分類
2006-024530	シャープ株式会社	表示装置およびその製造方法	2004/07/09	水分侵入防止構造
2006-032056	ハリソン東芝ライティング株式会社	発光装置及び発光装置の製造方法	2004/07/14	水分侵入防止構造
2006-032058	ハリソン東芝ライティング株式会社	発光装置	2004/07/14	水分侵入防止構造
2006-054146	凸版印刷株式会社	有機エレクトロルミネッセンス素子	2004/08/16	水分侵入防止構造
2006-127815	積水化学工業株式会社	有機エレクトロルミネッセンス素子	2004/10/26	水分侵入防止構造
2006-147192	三洋電機株式会社	表示装置	2004/11/16	水分侵入防止構造
2006-156150	日本精機株式会社	有機ELパネル	2004/11/30	水分侵入防止構造
2006-164543	株式会社 セルバック	有機EL素子の封止膜、有機EL表示パネルおよびその製造方法	2004/12/02	水分侵入防止構造
2006-164737	シャープ株式会社	表示素子、若しくはそれを備えた表示パネル及び表示装置	2004/12/07	水分侵入防止構造
2006-221906	キヤノン株式会社	有機EL素子及びその製造方法	2005/02/09	水分侵入防止構造
2006-236794	凸版印刷株式会社	有機エレクトロルミネッセンス素子およびその製造方法	2005/02/25	水分侵入防止構造
2006-294534	キヤノン株式会社	有機EL素子の封止構造	2005/04/14	水分侵入防止構造
2007-059407	三星電子株式会社	有機電界発光表示装置およびこれに備えられる有機薄膜トランジスタ	2006/08/24	水分侵入防止構造
2007-066580	株式会社豊田自動織機	有機エレクトロルミネッセンス素子及びその製造方法	2005/08/29	水分侵入防止構造
2007-073329	ランテクニカルサービス株式会社	有機ELDの製造方法	2005/09/07	水分侵入防止構造
2007-073405	コニカミノルタホールディングス株式会社	有機エレクトロルミネッセンス素子及びそれを用いた表示装置	2005/09/08	水分侵入防止構造
2007-087620	セイコーエプソン株式会社	発光装置、電子機器、および発光装置の製造方法	2005/09/20	水分侵入防止構造
2007-095412	凸版印刷株式会社	トップエミッション型有機エレクトロルミネッセンス素子	2005/09/28	水分侵入防止構造
2007-095430	オプトレックス株式会社	有機EL表示パネルおよびその製造方法	2005/09/28	水分侵入防止構造
2007-103048	オプトレックス株式会社	有機EL素子とその製造方法および製造装置	2005/09/30	水分侵入防止構造
2007-128685	東芝松下ディスプレイテクノロジー株式会社	有機EL表示装置	2005/11/01	水分侵入防止構造
2007-141803	彭冠璋	有機エレクトロルミネッセンス装置の封止構造	2005/12/22	水分侵入防止構造
2006-012765	日本精機株式会社	有機ELパネル及びその製造方法	2004/11/16	吸湿材・捕水材の利用 - 密封キャビティ
2006-019031	リエンチョンコアンティエンコーチャーケーフェンユーシーコンシー	有機発光装置	2004/06/30	吸湿材・捕水材の利用 - 密封キャビティ